

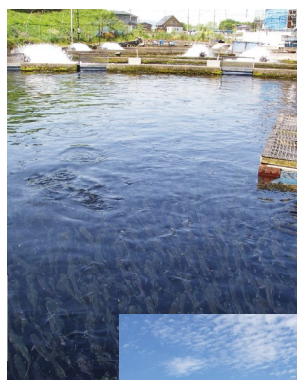
人の器、川の器

山梨県漁業協同組合連合会 代表理事会長
 全国内水面漁業協同組合連合会 理事

萩原 剛



日本一高い富士山の半分は山梨県にあります。この富士山には川がありません。山体が溶岩と火山礫でできているため雨水は一度浸透してしまふからです。しかし、一度地下に潜った水は静岡では白糸の滝、山梨では忍野八海などの湧水、それに富士五湖となって再び地表に現れます。



ニジマスの養殖場



富士山

川がないことは内水面にとってマイナスですが、この周年水温が変わらない湧水が豊富にあるおかげで、山梨県はニジマスの養殖生産量は全国第3位(573トン)、その他マス類は第2位(253トン、令和4年漁業・養殖業生産統計年報)となっています。まさに水の恵みです。

富士北麓の富士五湖では、ワカサギ、ヘラブナ、ヒメ

マスなどの釣りが盛んで、特にドーム船によるワカサギ釣りが活況を呈しています。最近では芦ノ湖漁協の技術指導を受け発眼卵が県外へ出荷できる体制が整いました。また、この富士五湖の一つである山中湖から流れ出した水は、桂川となり、昔から安定したアユ釣り場として毎年多くの釣り人が訪れています。



ワカサギ釣りのドーム船



桂川の流れ

一方県西部の南アルプスには日本第2位の北岳、第3位の間ノ岳が、北には八ヶ岳や秩父山塊など三千m級の山々があるなど、山なし県は山に囲まれた山あり県でもあります。これらの高き山々から流れは駆け下り、富士川は日本三大急流の一つになっています。山が奥深いことから、どの水系も源流まで長く、遠い、良好な渓流漁場となっています。

このように山梨は海なし県であるため、昔から地元



富士川水系早川支流の濁り



河川管理者との合同パトロール

○河川環境
 とところで南アルプスは、地殻変動により現在でも100年で40cmと日本一の速いスピードで隆起している地域で、加えて東に糸魚川静岡構造線という断層帯が走ることもあり大変崩れやすく、土砂生産の多い地域です。このため、川は濁りやすく、かつては尺アユの聖地であった富士川は、最近10年間は濁りつばなしの状況でした。この濁りの原因として人為的要因も加わっていることが推定されたことから、河川管理者へ

の人々は淡水魚を珍重し、釣りに親しんできましたが、近年では遊漁が中心となり、東京方面からの多くの釣り人が訪れています。

巡視の強化を要請したり、砂利業者への合同パトロール、大学と連携したワークショップ等を実施することで、かなりの改善が図られてきました。

近年全国各地で行われている河川の浚渫伐木事業に対しては、県が主催する漁業・公共事業連絡会議での講演や新たに河川担当になった土木技術者への研修会の開催、施工者側との現地確認等により漁場環境の維持保全に努めているところです。

また、県内には比較的降水量のある急流河川が多いことから、水力発電所が多数設置され、河川水が高度に利用されています。現在の維持流量設定手法は問題が多く、また水利川に関係する利害関係者が多数いることから、設定手法の改善に向けた検討委員会の設置について、10月に高崎市で行われる全国大会で提案させていただきます。



大学と連携したワークショップ



発電所の水圧鉄管

○増殖範囲の拡大

漁業法上は内水面漁協の責務と規定されていないものの、新たに多面的機能の維持保全が期待されています。また組合体制の弱体化を誘発する、資格審査手続きの厳格化など、現場にそぐわない指導が行われています。

しかし、今回の漁業権免許切替にあたり、水産庁は義務増殖の手法として、禁漁区設定による資源の積みだし、キャッチ&リリース区や尾数制限区、輪番禁漁区設定による資源の保全と維持が、免許権者が認めるのであれば、増殖手法となり得ることを示しました。これは今後の内水面漁業における資源維持に関する画期的な転換点になると思われます。このため、県漁連でも各組合へ新手法の積極的な導入を推奨しています。

ただし、これを円滑に実施させるためには、遊漁規則を守らない密漁者への対処が今以上に必要になってきます。山梨では県内の渓流魚場で遊漁承認証のコンビニ又は電子チケットの販売を行っているところは、現場売りを前売りの3倍の金額に設定して「監視員に会わなければ買わなくて済む」と考える釣り人を抑制することができますよう、関係者と協議を進めています。

○カワウ・外来魚対策

山梨県のカワウ対策は、県水産技術センターで先駆的に開発された数々の技術と山梨県カワウ管理指針に基づき、コロニーを1カ所に押さえ込む個体数管理及び、大部分の巣へ繁殖抑制を実施することで、県内被害を効率的に抑制してきました。しかし、いかにせん広域に移動する鳥であるため県外から侵入してくるカワウに対しては、毎年銃器を用いた駆除に努めることで、被害を低位に押さえ込んでいます。

また、コクチバスについては定着を阻止すべく、県内唯一の生息地である琴川ダム湖において集中的に駆除を行い繁殖阻止に努めています。この水域でのコクチバス釣りは内水面漁場管理委員会指示で禁止にされていますが、昨年はこれらの対処に加え、密放流が犯罪であるとして、県漁連と漁協で被害届を地元警

察署へ提出しました。このような法的対応は全国でも初めての事例と思われます。

全国各地の内水面漁協が抱える根本的な課題として、組合員の減少と高齢化等の要因があります。これについては簡単に解決策が示せるものではありませんが、釣り教室の強化や環境保全活動等を通じ、徐々に釣り人や河川環境保全に関心を持つ人を増やすことが、組合員の増加へつながると考え、釣り教室の強化に努めています。

河川環境を改変してきたのは、人間の関わりによるものです。水路でいくら魚を増やそうとしても増えるわけはありません。魚が生活史を完結できる環境を再び甦らせることが、我々に求められているのだと思います。器がだめなところで苦労しても満足はいく結果は帰ってこないでしょう。器の大きい人を育てることは大事ですが、けれども川の器を守り育てることこそが一番大事と言えるのではないのでしょうか。

漁場環境の保全と再生は簡単なことではありませんが、千里の道も一歩から、先ずは少しずつ釣りの楽しさや、自然とのふれあいの素晴らしさを感じていただくことから、始めて行きたいと思っています。山梨が輩出した武田信玄公曰く、「一生懸命だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言いつける」今後も、愚痴や言い訳でなく良い知恵が出るよう関係者一同努力して行きたいと考えております。



溪流魚ルーアー釣り教室